

三菱重工 国産ジェット凍結発表 3000人縮小、撤退可能性も

三菱重工は30日、国産初のジェット旅客機スペースジェット(旧MRJ)事業を凍結すると発表した。国民一体で開発してきたが、新たな中期経営計画で「いったん立ち止まる」と説明した。新型コロナウイルス感染症拡大が直撃し、納入先の航空会社の需要が見込めないため、人員や開発費を大幅に縮小する。1兆円規模を投じた約半世紀ぶり

スペースジェット事業凍結のポイント

- スペースジェット開発はいったん立ち止まり凍結。自社の成長分野から除外
- 開発費は2021年度からの3年間で計200億円とし、18~20年度の計3700億円から大幅圧縮
- 民間航空機事業などの従業員のうち、3000人規模を配置転換や社外への出向で縮小
- 型式証明の取得作業は継続するが、飛行試験は当面行わない

の国産機開発は頓挫。環境が改善しなければ撤退となる可能性もあり、雇用創出や技術革新を期待した政府の成長戦略にも痛手となりそう。2面に関連記事

泉沢清次社長はインタビューによる記者会見で、開発が大幅に遅れ、凍結に追い込まれた理由を「ノウハウや経験が欠けていた」と説明。「構造改革は喫緊の課題」として、今後はスペースジェット事業を自社の成長分野から除外すると明らかにした。民間航空機事業などの従業員のうち、3千人規模を配置転換や社外への出向で縮小する方針も示した。事業凍結の経営責任については「都度

都度の判断は適切に議論している」と述べ、明確にできなかった。

スペースジェットの開発費は2021年度からの3年間で計200億円に減らす。18~20年度の計3700億円から大幅な圧縮となる。運航に必要な国の安全認証「型式証明」の取得作業は継続するが、飛行試験は当面行わないとした。

スペースジェットはプロペラ機「YS11」以来、約半世紀ぶりの国産機計画で、08年に事業化を決定した。しかし開発のノウハウ不足でこれまでに6度納期を延期している。

国は裾野が広い航空機産業を育てるため、開発を積極的に支援してきた。経済産業省は08年度から累計で約500億円を補助。国土交通省は型式証明を審査する人員を約70人に増員し、日米にある三菱重工の開発拠点に派遣した。

三菱重工は同時に20年9月中間連結決算も発表。売上高は前年同期比11.7%減の1兆6586億円、純損益は570億円の赤字だった。

10月31日(土) 神戸新聞分

夢には金がかかる。夢には失敗が付いてくる。
 夢には理解者が必要だ。夢に2番はない。
 純粋に、空を飛ばせたい日本人の夢に、二度と
 戦争の参戦局に巻き込ませたくない部分で規制
 されていることを少しだけ緩めることはできないだろうか？
 一時的にも。